

どっこい生きてます!



海に近い地の利を生かして潮騒JTCでは通年で海プログラムを組んでいます。やはり夏場はそのピークで、記録的な猛暑が続いた今夏は8月初めに「真夏の海プログラム」が企画され、海水浴とBBQ(パーベキュー)と一緒に楽しめる隣の神栖市・日川浜オートキャンプ場に足を伸ばしました。BBQを満喫した後、午後からは若い入寮者らを中心に海水浴に移り、人気のスイカ割りを楽しみました。(3ページに記事)

2015

8

「遺骨無く墓無く盆の70年」 ～私の戦争体験から



戦後70年の8月、テレビや新聞では戦争に関する特集が盛んです。私も8月は、どうしても戦争について考えてしまいます。もしあの(太平洋)戦争がなかったら、私の戦後は反社会的な人生の歩みとはまったく違ったものになっていたでしょう。終戦時2歳だった私には、直接の戦争体験も父親の記憶もありません。父は赤紙一枚で兵隊に取られ、南方戦線で戦死しました。結婚数年で母親は戦争未亡人となり、自力では2人の幼子を育てられません。母は仕方なく私を里子に出し、2歳上の兄を父の実家に託して再婚しました。私は養母からの虐待と差別を受け、ひもじさといじめに遭う生活でした。「父親さえ生きて帰って来たなら…」。幼くして心の拠り所を失い、親の愛情に飢えた私は心を荒廃させました。少年期になると、自分のアイデンティティーを支える手段として意固地なほど「弱い自分」を否定し、強いものに憧れて成長するようになりました。

今でも忘れられない真夏の悲しい思い出があります。ワルとして地元で知られるようになった少年期のある年、養家とは父の実家の墓が近いことからお盆の墓参りに行きました。しかし、墓所は整地されているのに父の墓はなく、墓碑名すらもないのです。遺骨もなく、御霊は靖国神社にまつられていると聞かされましたが、代わりに榊が植えられているだけでした。「国のために戦死した父なのに、墓さえないのか…」。何もできない私は虚無感に襲われ、戦争を憎むよりも、弱いから日本は敗けたのだ、国も自分も敗けないためには強くなるしかない、と考えるようになりました。不良グループや愚連隊とつるみ、やがて暴力団の世界へと身を沈めるのに、それほど時間はかかりませんでした。

その後の私はアルコールと薬物(覚醒剤)に依存し、これで得られる一時の快感と偽物のパワーを「強さ」と思い込みながら、人生の大半を任侠道に費やしました。やがて身を持ち崩しますが、任侠道の世界も戦争を支える軍隊と同じように、暴力や武力というパワーゲームの幻想を組織原理、行動原理にしています。先の大戦で日本はこぞって軍国主義に染まり、偏狭なナショナリズムとパワーゲームの幻想に酔いしれた結果、自国民はもとより近隣諸国の人たちも含めて多大な犠牲を強いる不幸を招来させてしまいました。その反省に立った戦後70年の歩みは、世界に誇れる優れた平和憲法を宝にして「非戦の国」「不戦の誓い」を貫いてきました。しかし、70年間一度も戦死者を出さなかったこの国が、今まさに「普通に戦争ができる国」へと急激にかじを切りつつあります。そこで依存症の回復の道を歩む者として、私はこう主張します。人間の“本当の強さ”とは、自分の弱さを認めることです。そのことを私は60歳にしてダルクに繋がって教えられ、悟ることができました。平和憲法の精神こそ依存症の回復原理に通じるものです。何としてもこの宝を守り抜くことが、この国の明るい未来と希望を保障する道だと私は考えます。

(センター長 栗原 豊)



潮騒 JTC 恒例の「真夏の海プログラム」が8月4日、神栖市の日川浜海水浴場オートキャンプ場と同海水浴場であり、午前中のBBQ(バーベキュー)には仲間たち約80人が、午後の海水浴には約30人が参加して、潮騒の夏の風物詩ともいえる夏季イベントを楽しみました。真夏の炎天下ただただに、高齢の入寮者らには日陰がほとんどないキャンプ場の環境にやや難がありました。それでもこの日は普段外に出ない仲間も参加して「潮騒の夏」を満喫していました。

人気のBBQでは準備に当たったスタッフらが汗だくになりながら、35度を超える猛暑の中で食材の衛生管理に気を配り、手慣れた感じで火起こしなど一連の作業を進めました。上半身裸になる仲間もいて、大型の鉄板で大量の肉や野菜、魚介類などが焼かれ、得意の潮騒焼きそばも人気でした。午後の海水浴では、若い入寮者らが海中でのプロレスごっこをしたり、レジャーシートを敷いてスイカ割りを楽しみました。割られたスイカはさっそくみんなで食べ合い、「海で食べるスイカは格別！」などと話ながら懸命にかぶりついていました。

後日開かれた反省会では、スタッフらからBBQの準備や後片付けがスムーズにでき、トラブルなどもなく実施できたことが報告されました。とりわけ農業隊や作業隊の貢献度は大きく、同種イベントには不可欠な存在です。半面、入寮者の多くのお膳立てされたBBQに受け身的に参加している状況には反省の声があり、「コミ

ティを立ち上げて参加意識や動機付けを」「スタッフの任務分担の軽減を図るべき」などの意見が出されました。他にも「真夏のBBQは食中毒などリスクが多いので時期を見直すか、内容を変えるべき」「次回は日陰のある会場を確保したい」などを確認し合いました。

海プログラムを下支えしたスタッフの感想

潮騒は大人数だけに移動の苦勞などを考えると、すぐ近くの下津海水浴場でやりたかった。残念ながら下津ではBBQができないので、この辺りで唯一キャンプ設備の整った隣まちの海水浴場まで出かけるを得なかった。でも、今回は食材の肉や飲み物を豊富に用意したので、みんな満足してくれた。若い人から高齢者まで、潮騒の仲間が一堂に会して喜んでくれたのが良かった。短い時間でも仲間同士の親睦が深まり、互いに良い交流ができたと思う。海でのスイカ割りでは、個数も多く用意して予めクーラーで冷やしておいたので、割ると食べるのと両方の楽しみを味わえた。みんな、むしゃむしゃ食べてくれた。潮騒は海に近い地の利を生かして、夏場はふだんから仲間たちが下津海水浴場で週2回の海水浴を楽しんでいる。準備に当たるスタッフは目に見えない苦勞が多いけど、いろいろと工夫を凝らして仲間みんなが参加できる海プログラムにしたい。酷暑なので熱中症対策や水分補給に気を付けながら、「潮騒ならではの」海プログラムを今後も続けていきたい。(ティジ)



2015 潮騒ミニフォーラム

映像と発言で施設運営の現状と課題に迫る

縁あって潮騒ジョブトレーニングセンターという“居場所”に集まったことを大事にし、仲間同士の絆を深め、相互理解を図ろうと「潮騒ミニフォーラム」が7月17日、潮騒の活動拠点でもある鹿嶋市まちづくり市民センターで開かれ、女性施設メンバーを含め入寮者約100人が潮騒の現状と活動に理解を深めました。潮騒JTCも年を追うごとに施設規模が大きくなり、入寮者が一堂に会する機会を持つことが難しくなり、施設運営の全体像やどこで何が行われているのかも見えにくくなりました。入寮者同士が、互いの名前(アノニマスネーム)を知らないケースも増えています。名前を覚える前に退寮していたり、覚えたと思ったらいつの間にか居なくなってしまうケースもあります。

フォーラムでは、まず入寮3カ月以内の比較的新しい仲間が演壇前に並んで自己紹介しました。続いて各ナイト施設の説明や農業隊、作業隊、食事処「おらげのかまど」、高齢者小規模通所施設「百寿亭」に関わる仲間たちが、それぞれ活動報告をしました。このうち百寿亭については、ここに通う高齢者仲間の3人が発言。ギャンブル依存症のチョウさんは昨年11月に重篤な病に倒れながらも懸命なりハビリで施設に復帰した体験を語り、「今こうして自分が仲間の前で話せるのは奇跡。これも施設と仲間の励ましのお陰です。自分だけなら、私はとっくに黒

い縁取りの遺影に中にいる。私は62歳で百寿亭では一番若いですが、今を生かされていることに感謝し、“今日一日”の精神で頑張っ生きて抜きたい」と話し、会場の仲間から温かい拍手がありました。

引き続き、クリーンタイム12年の栗原センター長が施設独立の10年の歩みを振り返り、貴重な体験談を披露しました。難産だった潮騒の歩みと、これからの施設運営を展望して、自らが思い描く「アディクション・ビレッジ構想」の実現に向けた熱い思いも語りました。草創期の苦労については「当初、鹿嶋市役所近くのアパートを借りて“鹿嶋潮騒ダルク”と名乗ったが、一緒に独立した仲間はみんな病気が重く、回復が困難なメンバーばかりで、スリッパの毎日だった。でも、“ひどい仲間たち”がいたことで私に回復のエネルギーが生まれ、率先して困難を引き受けることができた。仲間よりもまず自分が変わることで周囲の状況も良い方向へと変化し、少しずつ自分の力ではない不思議な力、ハイヤーパワーの計画を実感できるようになった」などと振り返りました。

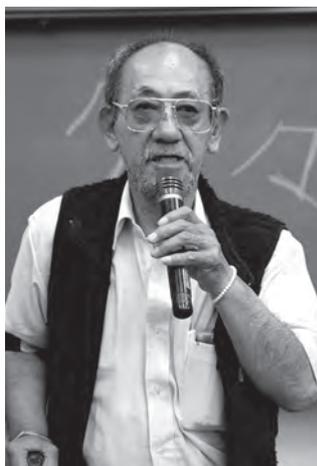
後半では、農業隊や作業隊の担当メンバーが撮影した興味深い施設映像を使って、それぞれの日常活動が報告され、また普段はあまりうかがえない女性施設の活動を紹介した映像(代表のルミさん撮影)には仲間たちの関心が集まっていました。(か)



「今私が生きているのは奇跡!」(チョウ)



「麻雀ゲームにハマってます」(オカ)



「仲間のお陰で充実してます」(アキナ)



「かまどで忙しい毎日です」(ハル)



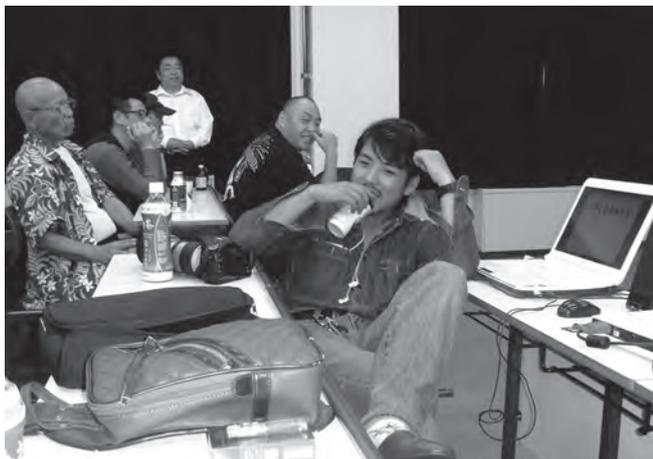
ここ3カ月以内に入寮した比較的新しい仲間も自己紹介



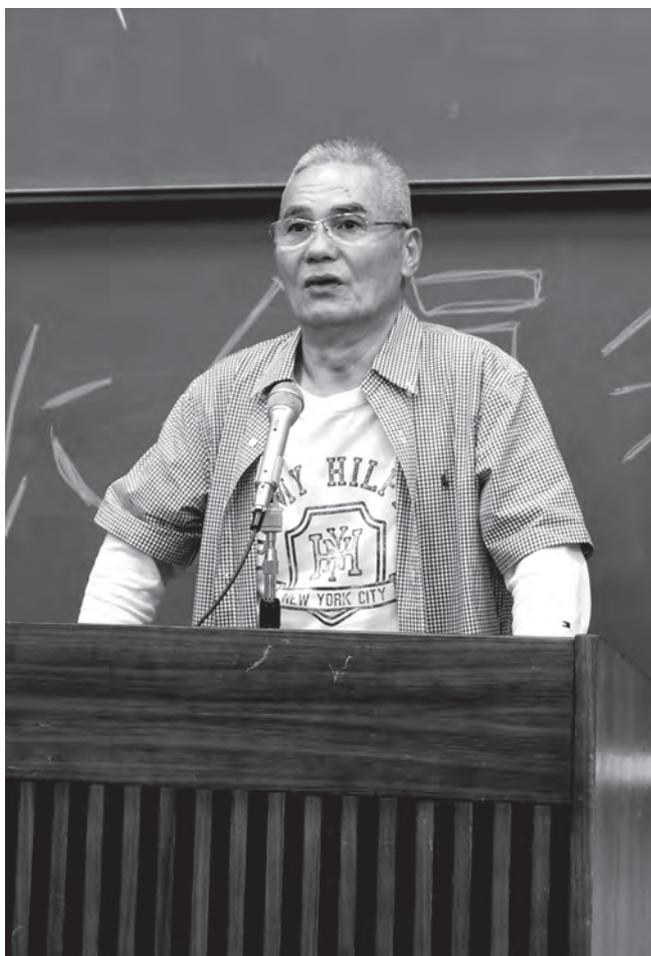
最後に全員が手をつなぎ輪になって「平安の祈り」を唱和



女性施設メンバーも参加して、徐々に潮騒入寮者の揃い踏み



パソコン操作のマサヤも存在感がジワリ



困難な状況下で施設を独立させた当時を振り返った 栗原センター長

今月のイベント参加報告

「ピアサポ祭り」でアディクトとしての自分の課題を見つめる



▲ 都内で開かれた「ピアサポート祭り2015 (略称、ピアサポ祭り)」に参加した栗原センター長や女性施設のメンバー、男性入寮者の皆さん

“しなやかに したたかに しぶとく どっこい生きる”をテーマに「ピアサポート祭り 2015 (第 11 回)」が7月12日、東京都世田谷区内で開かれました。摂食障害者の自助・ピアサポートグループ「NABA (ナバ) = 日本アノレキシア (拒食症)・ブリミア (過食症) 協会」が毎年この時期に開いているフォーラムイベントです。会場には、アルコール依存症、薬物依存、ギャンブル依存だけでなく DV、摂食障害、虐待を体験した人など参加、会場の約 9 割は女性でした。潮騒 JTC から女性施設「るみの家」の入寮者らのほか、男性入寮者も数人が参加しました。以下は参加者の感想です――。

また飲んでしまうか分からないが、回復の道を歩んでいく自分の“一粒で二度おいしい”人生…、そんな風に対談の中身を自分なりに理解しました。自分を磨くために時間を投資し、アルコールありきではありえない、「人生に対する姿勢」をコントロールする方法を学んで、充実した人生を送りたいと思った瞬間でした。

ノブの感想 信田 VS ハルエ対談でアル中の自分を見つめた

ピアサポ祭り午前中に仲間の話があり、アル中である僕の過去の体験、これからの目標などと照らし合わせながら、問題を自分に置き換えて聴かせてもらいました。午後のプログラムでは信田さよ子さん (原宿カウンセリングセンター所長、臨床心理士、様々な依存症、摂食障害、DV、虐待などに悩む本人やその家族へのカウンセリングを行っている) と仲間のハルエさん (上岡陽江氏、ダルク女性ハウス代表、精神保健福祉士、薬物・アルコール依存症、摂食障害からの回復者) の対談が心に残りました。

アル中でどうにもならず、苦しかった時期、そしていつ

しずの感想 ピアサポで考え方も視点も少し変えられた

まず第一に、こんなにもたくさんのアディクトがいるということに驚き、今まで私が吐き出せなかった想いや苦しみ、体験を堂々と語る仲間感動しました。回復に向かい未だ苦しんでいる仲間、自分と闘い回復したという仲間、色々な方々の話を聞きました。多種のアディクトの仲間も、目は前を向き、生き生きとしていたのにも感激しました。摂食障害の方々の話も、もっと聞きたいと強く想いました。性同一性障害、DVに合われた方と、アルコール・薬物依存、私には分からない事だらけでしたが、ピアサポで話を聞き、ほんの少しだけ分かって来ました。皆、大変な辛さ、惨めさ、切なさや闘ってきたという事。まだまだ奥深く計り知れませんが、接し方等、これから気を遣いながら過ごしていこうと想います。

スリップも何度も繰り返してしまった仲間もいました。本人も、周りも辛い事です。でも、失敗は成功の素だと信じ、受け入れられる勇気、受け止める強さも備えな

こんなイベントに
参加しました、
というご報告。

ければとも思いました。ピアサポに参加し、考え方も視点も少し変えられた自分がいます。参加できた事に感謝しています。これから長い道のりですが、私自信回復し、ステージで体験談が語れる日が来る事、笑って想い出話に出来る日が来る事を信じ、前向きに一步步進んでいこうと想っています。

すみれの感想 DVで支配されていた私が 問題に気づかされた

フォーラムに参加して、色々な依存で苦しんでいる人が沢山いて、精一杯生きていることを知りました。私はDVで、AL(アルコール)依存症になり、3年——。やっと飲まずに半年が過ぎ、そんな時のフォーラムでした。DVで支配されていた私が、逆に施設で支配していたことに気づかされました。心の中には自分では気づかない怒りがあり、ショックというか悲しいというか、自分の怒りを人にぶつけていたのだと、反省というか恥ずかしくなりました。私は前夫のことを許していないだと思いました。前夫と同じことをしていた自分は、まだまだ回復ど真ん中なんだなあ、と思いました。

たかこの感想 対談から AC が虐待された 子供達の事だと気付く

信田さんとハルエさんのトークではLA、AC、NAのうち、まず主にLAの事を話してくれました。私自身はLAではないのですが、いつものミーティングや仲間たちの話を聞いていると、私の周りにはたくさんのLAがいます。私は分かりましたが、その周りの人は分かっているのでしょうか？ 帰ったらその人達に教えてあげたいと思いました。そしてNA、これは私達の薬物をやっている人の事ですが、その事も面白く教えてくれました。薬物やアルコールはすぐ止められないし、意志が強くなければ止められない事を…。私が聞いていてすごく怖かったのは、AC、アダルトチルドレンの事でした。あまりその部分は突っこまなかったけれど、これは虐待された子供達の事です。子供は、そんな事をされるために生まれてきたわけではないし、親も選べない。親だってそんな事をするために生んだ訳ではないと思う。でも

何かの原因があつて、そうしなければどうにもならないから、子供を虐待するしかなかったのではないかと思う。私は子供を叩いたり、手を出したりはしませんが、今子供達と離れている事が虐待だと思っています。

みのろの感想 自分が抱えている病気の 多さに気づかされた

このイベントフォーラムで私は、自分が抱えている病気の多さに気づかされました。いろんな病気、依存症を知り、もっともっと話を聞きたい、そして私もいろんな事に共感し、いろんな人達に話してみたいって思いました。私は3か月前に依存症を抱えた人達の施設につながり、毎日ミーティングがあるのに、テーマに沿って言いつばなし、聞きつばなしのミーティングで、ほとんど自分の過去に触れず、私は自分が抱えている病気に向き合う事はしていませんでした。自分を見つめ直し、認めるところからスタートしようと改めて感じさせられました。回復したい、それだけが私の想いです。

ぎんの感想 依存症になって 経験できたことをプラスに考える

様々な人の話を聞かせてもらってとても勉強になりました。とりわけ心に残ったのが、薬物やアルコールなどの依存症になってしまったけど、ならなかった人生より、一度で二度おいしいみたいな感じの言葉です。確かに薬物を使っていない人生も使っている人生も経験して、普通に生活していたら経験できなかった事も経験できたこと、プラスに考える事ができることを知りました。薬を使う事は決してして良い事ではないし、私はすぐ後悔ばかりしているし、でも過ぎた事は変えられないんだから、この後悔をバネにして前に進む事もできるんだと思いました。薬にハマって周りを苦しめてしまったけど、使っていない生活をしていたら多分人の優しさとか思いやる気持ちとか家族の大切さとかも気付かなかったと思います。ピアサポで話を聞いて、自分が回復したいって、焦って自分の意志を使ってしまっている事にも気付きました。まだまだ自分を委ねられてないから、いろいろ気付てよかったです。

栗原センター長らが 北海道ダルクフォーラムに参加

「出会い」をテーマに6月13日、札幌市内で開かれた「第11回 NPO 法人・北海道ダルクフォーラム」に、潮騒 JTC から栗原センター長らが参加しました。ゲストスピーカーの日本ダルク代表、近藤恒夫氏とスタッフのマーシーさんらによるトークセッションが会場を沸かせました。近藤氏は過去に裁判で「自分は覚醒剤をやめられない」と述べたことを振り返りながら、「医療には優しさがあり、正直になろうとする姿勢を引き出させてくれるが、司法のアプローチは厳しさを求めるので正直になれず、本人が“もう2度としません”と嘘をつくように仕向けてしまう。そのため裁判では当事者本人に自己決定や判断を促すより、司法関係者が方向性を決めてしまう。結果、どこまで行っても当事者は受け身でしかなく、依存症の回復につながらない」と指摘し、栗原センター長らは示唆を受けていました。(み)



information

11月8日、つくば市内で太鼓と発言で綴る 依存症フォーラムを開きます

6月号で既報したように、今年11月8日に茨城県つくば市西大橋のカスミつくばセンターで「カスミ“私の「企画”応援します！」が開かれます。潮騒ジョブトレーニングセンターの応募企画「世間は僕らを誤解している～当事者の語りと太鼓で綴る依存症フォーラム」も選ばれ、他の6市民団体と一緒にこの日一日、工夫を凝らしたパフォーマンスに取り組みます。同企画は今年23回目ですが、アルコール・薬物・ギャンブル依存症がテーマとなるのは初めてのことで、世界のつくば会場に、期待を裏切らないよう太鼓の練習に励み、当事者のメッセージトークやパネル展示の準備をしっかりとやります。翌週は潮騒の10周年記念フォーラムですが、是非つくばにも足を運んでください。

講話と太鼓演奏で盛り上がった 茨城ダルクフォーラム

茨城県結城市ある茨城ダルクの23周年フォーラムが7月19日、結城市のアクロスであり、潮騒JTCからも仲間数人が参加して太鼓演奏などで刺激を受けました。今回のフォーラムテーマは「新しい生き方」で、お馴染みの支援者や当事者らの発言があり、茨城ダルクから巣立った栃木ダルク代表の栗坪千明氏、仙台ダルクの飯室勉氏、日本ダルクの近藤恒夫氏らが示唆に富む話をしました。圧巻は茨城ダルクの真骨頂である和太鼓演奏のステージで、練習に励んだ成果を披露しました。応援した日本ダルクアウェイクニングハウスのエイサーもフォーラムに花を添え、女性シェルターのエイサーにも大きな拍手がありました。(か)



フォーラムに参加した潮騒の仲間たちが刺激を受けた茨城ダルクによる和太鼓演奏

こんなイベントに
参加しました、
というご報告。

W ヘッダーで太鼓演舞を披露、保育園夕涼み会にも参加

8月は夏祭りの最盛期。少しずつ知名度と腕を上げてきた潮騒太鼓も今夏は、新たなオファーを受けて忙しいスケジュールをこなしました。「潮騒太鼓連中」を名乗る太鼓隊メンバーらは、まず8月1日に大野地区の高齢者福祉施設でエイサー演舞を披露しました。2日は、鹿島神宮駐車場の特設会場で開かれた「鹿嶋市市制施行20周年記念・第16回商工夏祭り」に出演、指導を受ける実力派の鹿島灘太鼓メンバーとともにまだ暑さの厳しい午後4時過ぎに舞台上に登場しました。「車切り囃子」を皮切りに「安波囃子」「灘のすずめ踊り」、見せ場の「跳ね込み」、纏いの舞い「小桜返し」、勇壮華麗な「銚子大漁節」の演目を次々披露し、潮騒エイサー隊の熱演とともに存在感を示しました。

この日は夕方から隣の神栖市知手の「第44回かみす七まつり」にも参加しました。時間がない中で片づけや移動は大変でしたが、歩行者天国となった通りで、潮騒太鼓隊や灘太鼓のメンバーらは2回目にもかかわらず疲れを感じさせない「三宅」や「小桜返し」「早馬鹿囃子」などを演舞しました。比較的珍しいとあって、潮

騒エイサーも注目を集めていました。一部で酔客相手の難しさもあったようですが、大いに祭りを盛り上げました。

これに先立ち7月24日には、下津施設に近いプー保育園で恒例の「夕涼み会」が開かれ、潮騒からは「焼きそば」「かき氷」「キャラメルポップコーン」「じゃがバター」を出店しました。潮騒太鼓連中のエイサーチームも「鹿嶋琉球太鼓」を演舞し、園児たちちびっこも一緒に参加して楽しい真夏の思い出を造りました。途中で雨になりましたが、仲間の頑張りには支えられました。



祭りを裏方で支える潮騒メンバー、作業隊としても活躍しています



かみす七まつりでは自慢の「潮騒焼きそば」も販売、人気でした



かしま商工夏まつりの舞台上で華麗な演奏をする鹿島灘太鼓メンバー



潮騒・鹿島灘太鼓の中心メンバー、その表情には余裕と風格が漂う？



エイサー隊も灘太鼓に負けじと、ナカちゃんが華麗な太鼓パフォーマンス

受刑者からの手紙

私は救われた。ダルク、栗原先生、しゅんさんに

私が今考えること、感じることを思いつくままに書きたいと思います。最初に許しを請いますが、あくまで私個人の感情であり、無責任な発言であることは十分に承知してのことですから、本当にすいません。まず、潮騒通信のセンター長の「悩みながらも、仲間を信じて前に進みます」を読んで、施設運営に関する経費負担については、苦しい台所事情はわかりませんが、想像以上のものだと思います。ただ、入寮者の問題については色々な考え方があるように思います。

潮騒 JTC は発展途上であり、一つ一つが前例のない新しき道を歩いていられることと思います。何度も失敗を繰り返すことで、暗中模索しながら出口を目指す。そして、一年一年結果を出すことで、次の方向を見出す。規模が大きくなることで、人としての道徳的な感情が反目したり擦れ違ったりして、小さな火種がポツポツと湧き上がる。消えてしまえば問題ないけれど、ぶつかり合ったり大きくなってしまうと、個人レベルから外れ全体に波及し、收拾のつかないことに発展していく。そんな混沌とした環境の中に新しい入寮者が入っていく。それぞれにビジョンを持って希望に胸ふくらませて。そして一日一日生活を続ける中で、自分の居場所を確立させようと先人達との心の摩擦の繰り返しの中で、うまく溶け込むことで回復の日々が進んでいく。

しかし、少数の人の中には、自分自身をうまく表現できずボタンを掛け違う中で、安易に暴力で解決する人もいたりする。ただ自己表現の出来る人間は、改善の意志を感じられるように思います。自分が進む方向が右なのか左なのか、私は自分の言葉で、行動で示すことができる人でありたいと思うのです。集団であることから、規範意識は必要です。自分を守り、相手を守る為にルールがあれば、理想的です。自由というルールの中に含まれる道徳観の違いは、すべての者の中で同じであるはずありません。トラブルは良い意味で前例となり、次の場面の対処に役立ってくれるのでないでしょうか。治療中の身であるならば、様々の問題提起は病原菌の発見であり、早期の治療が大事だと思います。

それでも、こぼれ落ちていこうとする仲間に対して、手を差し出す勇気であったり、どんな言葉も聞く心は忘れたいように思います。私もしゅんさんに話をぶつけることで、今までにない生きる喜びを感じるようになってきました。虚構の中にも存在する真実。現実の問題として私は依存者であって、回復に向かって歩いていくことが真実でなければならないと思います。ダルクにつながったことが、私にとって最大のチャンスだと思っています。今が最高の好機です。やっと巡ってきたチャンスを掴めなかったら、自分は終わりです。なんか支離滅裂な文になりましたことを深くお詫びします。私は救われた。ダルクに救われた。栗原先生に、しゅんさんに、仲間たちに。心からお礼申し上げます。ありがとうございます。(宮崎県 H・N)

元いた場所に戻らずに新天地でやり直したい

お手紙有難うございます。私にはクスリから手を切りたい気持ちは十分にあります。これまで私の置かれている環境が悪いのではないかと色々考えてきました。現在妻はいるのですが、正直5年6カ月待っていてくれるかは定かではありません…。何度も何度も裏切ってきているので信用の無い私ですから、仕方がありません。柄受けを妻にするか今とても悩んでいます。妻が(私の出所を)待つか待たないかという次元ではなく、本当にクスリを止めるなら元いた所に戻らず新天地でやり直したいと真剣に考えています。

今まで4回の務めで、こういう前向きな考えを持つようになったのは初めてです。この変化には自分自身客観的に見て、少しは進歩したのかな?と思っています。お手紙の中にプログラムに12のステップがあると書いてありましたが、とても興味があります。中にいるのは仕方がないからクスリを止める…という考え方もあるとあって、勝負は出てから、自由のある世界で果たして止められるのか?それが難しいのでしょね。出てから妻の元へ帰らず、そちらで回復の為何か良い方法がありましたら教えて下さい。(東京都 I・J)

受刑者の皆さんからの手紙には時折、ハツとさせられる部分があります。施設で暮らすことよりも、物理的に不自由な暮らしの中にいる受刑者の方が、もしかして精神の営みは豊かなのではないかと考えさせられてしまうのです。今回の手紙には、まさしくそう思わせる内容が含まれていました。受刑者の深い内面から紡ぎだされる言葉には、何らけれん味や嘘はないと感じさせます。また、出所期日が迫る中で仮釈が満期かで悩むのも共通しています。潮騒では悩み続けることが、依存症の受刑者の回復に「何事かをもちたす」と考えています。

12 ステップを読み未来に希望が持てるようになった

いつも忙しい中、手紙を書いていただき、本当に有難うございます。皆さんの手紙にいつも励まされておりまして。読む度に色々なことを考えさせられます。このような場所にいると過去を見ても、未来を見ても、今を見ても、不安なことだらけですが、皆さんからの励ましのおかげで少しずつではありますが、前に進む勇気が湧いてきました。12のステップを読みながら、これからの未来に希望を持てるようにもなりました。

一人だけでは回復の道を歩けないこと、私自身も重々理解しています。同じ苦しみを持つ仲間であること、私も皆さんと一緒に回復していけることを、心から願っています。

先日のグループミーティングで、自分の発言の番になり、今まで経験したこと、昨年は歯を失ったことを正直に話しました。なんだか重い話になってしまって、場がしらけてしまったようで…、話さなきゃよかったかなと思いました。でも、人前で話してみても、少しスッキリした感じはありました。皆の意見は特に聞けませんでした。誰かに聞いてもらうことで得られるものが何かあるのだなと思いました。

潮騒通信の方も有難く読ませていただきました。皆さんの頑張っている姿を見ながら、私も早く頑張りたいと、わくわくしている所です。チハルさんの回復記も心に残りました。また、栗原センター長の大変さも伝わってきました。私もそちらにお世話になろうという人間ですので、皆様に迷惑を掛けぬように、規則やルールを守り、思いやりを持って謙虚に生活できればと思っております。仲間として溶け込めるよう頑張りますので、色々ご指導いただければと思います。皆様どうか熱中症には気を付け、回復への道を頑張って歩いてください。私も今出来る事を全力で頑張って来ます。
(北海道 S・T)

引き受けを取り下げて頂こうか本気で悩んでいる

私には、自分を熱心に誘い働かせてくれるという方が都内に居ます。過去すべてを承知の上での事で、大変な難しい事です。私もこの歳(46歳)まで色々な事をやって来ましたが、暴力団も含めどれも中途半端で、真っ当に働いたことなどありません。カタギの働き先など一切なく、働くということがどういうものなのかもロクに知りません。本心を言うと、その方へお世話になろうとも考え、迷っている次第です。栗原センター長には身元引受人になって頂いていますが、今のところ自分は潮騒JTCへ行く事、そこで薬物離脱をして二度と薬物に関わらない事を決意しています。まあ、自分は覚醒剤の使用は殆どしないので、それ程難しいとは思いませんし、今まで4度の服役も、営刑、譲り渡しがほとんどで、実際眼の前に置かれても、使用しない時の方が多いと思います。

話がそれましたが、担当課からは潮騒へ行き、回復プログラムを受け、センター長が引き受けという条件を出されていて、それをクリアしなくては、いくら行状が良好でも、仮釈の道は閉ざされてしまいます。まだ仮釈なのか満期出所なのかは解りませんが、やはりこのような場所に居ると、一日でも早く娑婆へ戻りたい。一分、一秒でもと思うのは当然とは思いますが、記したとおり、熱心に私を誘ってくれている社長さんもいますし、何より潮騒に行くと、外で働くことなど出来ず生活保護などに頼って生活しなくてはならなくなり、そうなった場合、約束の13カ月間を我慢できるか、また我慢できたとすれば逆に今度は外で働く事が面倒くさくなり、そのままですると自分の生き方さえ忘れ一生を終えてしまう気がして、とっても怖いのです。出所の日が近付くにつれ、色々と考え込み、自分なりに悩んでいます。当然の事ながら、仮釈の場合には栗原センター長の元へ行く事になりますが、今自分なりの考えでは、センター長に引き受けを取り下げて頂こうか、本気で悩んでいます。自分も何か生きた証というか、これだけ頑張ったと言える何か欲しい訳です。私は、こう思うのです。人生にはそうそうターニングポイントはない、と。そこに気づくかないか、気づかないふりをするか…。素直な気持ちが多分、自分をここまで悩ませていると実感しています。どうかセンター長の考えを教えてください。万が一満期の場合、ジョブへは行かず、働いて自分の人生を切り開きます。
(神奈川県 I・M)

しおさい俳壇

8月のお題

海

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.20

センター長 栗原豊

引き続き、私が姪に宛てた手紙を手掛かりに、当時の私の受刑者生活を振り返ってみる。起床は午前6時30分、洗面、食事を済ませて工場に出役し、7時45分に作業開始。9時45分に休憩。12時に昼食となる。食事を終えて12時20分にまた作業開始。午後2時30分に午後の休憩。そして4時15分に作業を終了して舎房へ戻る、という流れだった。私が最後(7度目)に“務めた”刑務所内には約12の工場があり、工場によって仕事の内容は異なっていた。各工場は30人ほどで構成された。懲罰を受ける以前の私は車のライトを作る仕事だったので座っての作業で汚れることもなく、静かに楽しくやれた。

それが懲罰後には金属工場に配役になり、電気の回線の交わるボックスを作る仕事に従事した。私は溶接部分の凹凸のバリ(材料を加工する際にできる突起の部分)を、サンダーという機械で削除する仕上げ作業を担った。黒い金属の粉塵が飛び交う中での作業で、安全対策から重装備なので、それだけでも大量の汗をかく。まるで暑さの我慢比べ大会のような感じだった。汗と粉塵で真っ黒になるので他の工場では週2、3回の入浴が、私の工場では毎日許可された。作業終了の時間も早めだった。

土日、祭日は工場が休みとなり、寝起きする舎房で過ごした。ラジオが一日中かかり、テレビも毎日夜7時から9時まで視聴できた。私は9人部屋にいて、本を読んだり勉強したり、おしゃべりをしたりと各人過ごし方は様々だった。この部屋では私が一番の年長で、若い人は30歳ぐらいだった。部屋にはブラジル人もおり、私が通う工場にもイラン、ベトナム、中国、パキスタンと様々な国籍の外国人がいて国際色豊かだった。当時でも、受刑者の過剰収容と増え続ける外国人の受刑者問題は深刻だったようだ。(次号につづく)

夢覚めてもとの鰥夫(やもお)と鉄格子 ※鰥夫=老いて妻のない男、男やもめ

砂浜に

LOVEと書きし日

夏の海

いしだ

特選句

砂浜に何かを書くのは夏だけではないが、青い海、照り付ける太陽の下で開放的なのは夏の海で若者には恋の季節でもある。歌謡にも、真赤に燃える太陽などあり、それらの思いも込めて青春の日の句かも。

今はもう

泳げぬ我や

海開き

あべ

特選句

夏を迎えると山や海開きがあり、神事の後入山や泳ぎが始まる。この詠は何処の海開きだろうか、若い頃は泳ぎも達者であったが、もう老いて泳ぎも出来なくなつた。それでも海開きを見て昔の自分を懐かしむ、私も里の海が懐かしい句です。

秀逸句

今月の秀逸句

ゆたか

玫瑰はまなすや長者ヶ浜の潮汲み場

長者ヶ浜潮騒はまなす公園前駅は日本一名の長い駅で有名ですが、地元の人には鹿嶋市角折と言う方が解り易い。昔の製塩の為の潮を汲む場所が今もあるのか、はまなすの花も鄙(ひな)びた鹿島灘に相応しい句です。

ヒロ

恋人の オイル塗り合ふ 夏の海

現代は男女の仲も開放的で浜辺にこうした景もよく見掛けるがこれも夏の太陽の下で明るくて良いかも。日本は大和撫子など言われた時代から随分変わったとも思う句です。

すみれ

水着買ふ 着るなと言われ 夏終わる

水着は今ではファッションの一つで毎年変わり女性は着てみたい物の一つだが、これも年齢に合う物が良いかも。余りに露出なのはそれなりのプロポーションも要する。家族等に似合わぬと反対されたのか、その内に夏も終わってしまった。面白い俳諧の句です。

鬼

八重山の紺碧遙か夏の旅

八重山諸島は石垣島、竹富島、西表島など十余の諸島で、竹富島の安里屋ウンタの唄、由布の水牛など観光の島でもある、また珊瑚礁の海は遙か迄碧く夏の旅に相応しい句です。

おの

幼な日や鹿島の海に初泳ぎ

昔の子供の頃は近くの川や海での遊びの中で泳ぎも覚えたので大方の子は何時の間にか泳げた。作者もこの鹿島の何処かの浜で遊び泳げる様になったのか。老いた今も鹿島灘を懐かしみ子の日を偲ぶ句です。

しま

様々のパラソルの花夏の海

海水浴場は水着もカラフルな物が多い時代で楽しいが、日除けのパラソルも浜に花が咲いた様で綺麗である。これを少し遠くから眺めると、青い海空の雲などと合わさって更に美しい夏の浜の景の句でもある。

シズ

満天に星の映えぬ夏の海

星の輝くのは秋や冬だが、夏の海も暮れて浜辺に仰ぐ星空も趣きがあります。ことに鹿島灘や犬吠崎の沖などに見る星は往く船も無く昼の賑やかさに比べて淋しさも思う句です。

佳作

思い出す吾の十代の夏の海	鬼	鹿島灘うねりに乗れるサーファー等	ち一な
夏の海子等の笑顔の砂遊び	ミク	夏の海ほっと出来ないこの暑さ	みのる
夏の海泳げないのねお世話様	あべ	大空に白雲湧ける夏の海	こば
夏の海沖の真中に眠りたき	ゆたか	砂浜に子等の賑やか夏の海	こば
鹿島灘夏のうねりも逞しき	イチ	夏の海日焼けの背中痛きかな	たかこ
船上の揺れにまかせむ夏の海	いしだ	夏の海孫と貝獲り競い合ふ	おの
夏休み子供のはしゃぐ浜辺かな	いるか	競い合ふ水着姿も夏の海	ヒロ
子供等に波がぎらぎら夏の海	はな	サーファー等波頭を滑る鹿島灘	カート
駆け出せる子等の歓声夏の海	れいこ		

現在に至るまでの道のりは、決して楽な道のりではありませんでした。酒を断つ…、ただそれだけの事がいかに苦悩に満ち困難なことか…、その現実と症状の進行に打ちひしがればなしだった自分の実体験を話します——。

自分のアディクションはアルコール依存症です。酒を飲むと分量のコントロールが出来なくなり、最終的には人を傷つけてしまうという性を背負っています。施設に入寮する前は、社会で毎日酒を飲んでいました。その度にトラブル(破壊的行動など)を起こし友人や恋人、親兄弟がだんだん自分から離れて行くのを実感しながら、それでも酒を飲み続けました。

その頃の自分には、自分の問題(アルコール依存症)が認識出来ていても改善をする力がなかったので、酒をやめることが出来ず問題はどんどん悪化していきました。その代償は大きく、やがて信用を失い、孤立していきました。その孤独感から、人生に妥協し「もうどうなってもいい」「いつ死んでも構わない」と思うようになり、ますます破壊的行動がエスカレートしました。破壊的行動は他人を傷つけ金品を奪い、恋人の心を踏みにじり、自分の家族、会社の同僚、友人たちの環境と家庭をめちゃくちゃにしていき、最後は罪悪感から己の心をも殺しました。

それでも自分の事を息子の様に扱ってくれ、一人暮らしの自分にご飯をごちそうしてくれた心の優しい人もたくさんいました。「俺はこんな人間になりたい」と尊敬や憧れを抱いた上司の方もたくさんいました。しかし、酒を飲むと知らないうちに破壊的行動を起こしており、朝目が覚めると記憶がなく傷だらけになった上司が部屋に来て「警察には行かない。その代り二度と俺の前に姿を見せるな」と、自分がたった昨日まで尊敬していた上司に絶縁される、という惨状でした。

その時の自分の心情はどんなものだったのか？異常なまでの罪悪感により心が完全に崩壊していきました。それが幾度となく繰り返され、やがて心は消滅へと向かい、幻聴や勘ぐりなどの症状が現れるようになりました。その頃の自分は、飲み屋に行くことが唯一の現実から逃げる逃走経路だと思っていました。しかし、酒の魔力に魅了された自分は職を転々としていて、自分の力だけでは飲み代をまかなえなくなっており、他人を暴力で支配し全てを奪い取る方法でしか、お金を稼ぐ事が出来なくなっていました。

ヤクザの言葉で言う「しのぎ」です。でも、社会の方たちからしたらただの「強盗」。自分は自分が現実から逃走するためにいったい何人の人の生活を狂わせ、恐怖の底に突き落としたのだろうか？今になって考えたら弁解する言葉も見つかりません。なぜ、そこまでして酒が飲みたかったのか？それは現実と向き合えなかったからです。罪悪感、幻聴、勘ぐり…、これらの前では「無力」だと潮騒JTCに入寮する前から気づいていたからです。

過去は、決して変えられない。どんな人間にも出来ないことです。しかし… やり直しはきく、1から作り上げて行けばいい。アルコール依存症の症状は、決して軽くない。なぜならアルコールも薬物だから、それも合法の薬物だから…。(次号に続く)

※本欄で2回続いたチハルの回復記は今回休載します。分量が多いので、次号からは独立したページで掲載します。ご了承ください。

読者からの便り ～潮騒JTC支援者の自由詩人、白田美鶴さん(茨城町在住)

「真の平和には日本国憲法の護憲が必要」

残暑お見舞い申し上げます。この世の中は全てにおいて、パワーゲーム(ギャンブル)で動いていると言えそうです。政治、経済、産業、スポーツなど、どれを取っても戦争であり、その背景は暴力的です。戦争は勝戦国と敗戦国をつくり分けますが、勝敗の影ではどれほどの命が失われ傷つき、心身に深い傷を残すかです。そして、そのような記憶の種には、また新たに目を出し、黒い花や実(戦争)を咲かせ、実らずか分かりません。戦争は全国民の明日を、暴力(法的権力的命令)で不幸にさせます。特に弱い立場に居る人々は、国からも社会からも重圧をかけられます。

現日本国憲法は、世界で最も優れた法です。しかし、安倍政権は日本を普通の国(戦争肯定国)にしようとしています。どんな理由であれ、暴力的・武力的解決は幻想です。真の平和を可能にするには、やはり日本国憲法の護憲が必要であり、この考え方を広く世界に広めることが重要です。安保法案も、TPPも、沖縄の基地問題も、米国からの圧力が大きくかかっています。日本の問題は、米国の政治的・文化的・思想的重圧から発生しています。日米安全保障条約と日米地位協定で、日米戦の勝戦国と敗戦国の間の取り交わしから解放されていない日本の姿(奴隷国)が、今も生きています。現政権は、米国の意向を重視し、日本国民の多くの民意や疑問視している案件に耳を貸さず、国民の主権を無視しています。

その結果、国民の政権支持率はどんどん下がってきています。このまま下がり続けると、次の選挙では大敗するでしょう。日本国憲法は、不戦を明記しているだけでなく、最も弱い立場の人々の人権や生存権も保証し、国はそのような人を守り、支えることを義務付けています。また、不戦を明記することは、国外の人々の人権も保証し肯定することに他なりません。戦争は、権力者の強引(暴力)で国民を法的に、暴力的に拘束し従わせる行為です。憲法改変や拡大解釈で、戦争のできる国の後方支援や集団的自衛権の安保法案を今国会で可決させることは、日本国憲法という日本丸の船底に穴を開けるようなものです。日本丸の沈没は、平和の沈没であり、国民を再び不幸な暴力肯定の地獄へと導くはじまりを意味するように思います。主権者の私たちは、ここでふんばらねばと思います。御自愛下さい。

8月の行事予定

- 1日 AA 館山 G フェローシップ (~2日)
- 2日 第16回商工夏祭り~鹿島神宮駐車場
第44回かみす七夕まつり~神栖市知手
- 4日 真夏の海プログラム (バーベキュー&海水浴)
- 6日 潮騒俳句会
- 9・15日 秋元病院メッセージ
- 15・16日 スマープ・プログラム勉強会
- 22・23日 スマープ・プログラム勉強会
- 23日 潮騒家族会
- 30日 潮騒アディクションセミナー

9月の行事予定

- 10日 潮騒俳句会
- 12日 第19回仙台ダルクフォーラム
- 13・19日 秋元病院メッセージ
- 12・13日 スマープ・プログラム勉強会
- 19・20日 スマープ・プログラム勉強会
- 23日 リカバリーパレード
回復の祭典~東京
- 24日 潮騒映画会

※【編集後記】は休みました

**8月の
バースデイ**



せいじ
100歳まで、
生きたい。



あいだ
お酒が、
飲みたい。

献金・献品を頂いた方 (8月15日現在)

- ・中村 啓一様
- ・内堀 高良様
- ・石井 照明様
- ・美空野保育園様
- ・麻生 康彦様
- ・鈴木 正明様
- ・針替 春乃様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することが
できておりますことをご報告いたします。
今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。
※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

潮騒通信 **どっこい生きてます!** 2015年8月号

Contents

- P ② 「遺骨無く墓無く盆の70年」~私の戦争体験から
- P ③ BBQ & 海水浴
- P ④ 2015 潮騒ミニフォーラム
映像と発言で施設運営の現状と課題に迫る
- P ⑥ 今月のイベント参加報告
「ピアサポ祭り」でアディクトとしての自分の課題を見つめる
栗原センター長らが北海道ダルクフォーラムに参加
講話と太鼓演奏で盛り上がった茨城ダルクフォーラム
W ヘッダーで太鼓演舞を披露、保育園夕涼み会にも参加
- P ⑩ 受刑者からの手紙
- P ⑫ しおさい俳壇「海」
- P ⑭ どっこい私も生きてます「マサヤの回復記」



■ 編集・発行：

特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム(中施設)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス銚田
〒311-2113 茨城県銚田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

